

大連神戶間	大連伊勢灣間	大連横濱間
大正三年七月		
〇〇六五		
〇〇六五		
同 十一月		
〇〇六五		
大正四年三月		
〇〇六五		
〇〇六五		
同 七月		
〇〇六五		
〇〇六五		
同 十一月		
〇〇六五		
大正五年三月		
〇〇六五		
〇〇六五		
同 七月		
〇〇六五		
〇〇六五		
同 十一月		
〇〇六五		
大正六年三月		
〇〇六五		
〇〇六五		
同 七月		
〇〇六五		
〇〇六五		
同 十一月		
〇〇六五		
大正七年三月		
〇〇六五		
〇〇六五		
同 七月		
〇〇六五		
〇〇六五		
同 十一月		
〇〇六五		

大正八年三月	二二八五	四三〇五	四三七
同 七月	四〇	六三〇六	六四五
同 十一月	四〇二	六四〇五	六五〇〇
大正九年三月	三三八三	四四五〇	五四〇三

第三項 備船料ノ變動

戦亂勃發後歐洲聯合諸國ニ對スル食料品及軍需品ノ輸送激増シ其ノ他一般貿易ノ増進ニ伴ヒ船舶ニ對スル需要次第ニ緊切ト爲リ邦人相互間ニ盛ニ備船ノ引合行ハレタルノミナラス戰前極メテ稀ニ見タル對外備船ハ次第ニ増加シ大正六年七月末ニ於ケル内外人ニ對スル備船ノ隻數及總噸數ハ左ノ如キ數字ヲ示シ隻數ニ於テハ本邦汽船總數ノ約一割總噸數ニ於テハ本汽船總噸數ノ約三分一ヲ占ムルニ至レリ

邦人ニ對スル備船 隻數 一八〇 總噸數 四七〇、〇四〇

第四項 船價ノ變動

右ニ述ヘタルカ如ク開戰以來運賃及備船料ハ逐次奔騰シ船舶ノ收益力著シク増大シタルヲ以テ船價ノ暴騰ヲ見ルニ至レルハ怪ムニ足ラサル所ナルカ船舶界カ好況ノ極ニ達シ船主ノ黄金時代ヲ現出シタル當時ニ在リテハ一旦船舶ヲ所有セムカ何人ト雖一舉ニシテ巨萬ノ富ヲ獲得スルコトヲ得タルヲ以テ船舶運用ノ意思及技能ヲ有セスシテ單ニ轉賣又ハ備船ニ依リ利益ヲ收ムルノ目的ヲ以テ盛ニ船舶ノ賣買ヲ行フ者續出シタルニ因リ船價ハ正常ノ需給關係ヲ越エテ激騰セルヲ見タリ而シテ既ニ叙述セル所ノ如ク船舶ノ需要ハ遠洋航路ニ於テ最大ナルモノアリシヲ以テ船價ノ騰貴モ大型船最モ顯著ニシテ大正六年八月斯界好況ノニ絶頂ニ在リタル時ニ於テハ重量噸一噸千圓ニ上リ戰亂勃發當時ノ價格ニ比シ實ニ十倍ニ達スルヲ見タリ

戰時船舶管理令實施後賣買ノ手合少ク船價稍低落シタルモ尙船腹ハ一般ニ逼迫セルノミナラス米國ノ鐵材輸出禁止ハ本邦造船所ヲ材料難ニ陥レ新船ノ建造

ニ依ル船舶ノ補充モ急速ニハ期待スヘカラサル状態ニ在リタルヲ以テ市況底強ク且大正七年春以來對米船舶提供ノ影響ヲ受ケ再昂騰シタルカ休戰條約成立ハ海運界ヲ混亂セシメ大正七年末ヨリ同八年初メニ至ル迄賣船ノ手合殆ント絶無ト稱スルモ不可ナク船價唱相場ノ激落シタルハ勿論一時標準船價ヲ有セサルニ至レリ大正六年六月以降船舶界稍引締リ大型船三百二十圓乃至三百八十圓ヲ唱ヘ商談ノ成立増加セルノミナラス英米ニ於ケル造船材料強調ヲ告ケ一般海運界亦好況ヲ維持シタルヲ以テ船價底堅ク其ノ後別段市場ノ變化ヲ見スシテ同年ヲ經テ翌九年初メニ於テ大體船價ノ變動ナク強調裡ニ推移シタリ

今大正四年以後ニ於ケル本邦古船賣買價格及海外輸出船舶數ヲ示セハ左ノ如シ

(一) 本邦古船賣買平均價格(船齡十五年乃至三十年ノ貨物船)

大正	年	總噸數		重量噸數	
		約	一噸當	約	一噸當
大正	四年	約	一一〇圓	約	八〇圓
		同	三三〇	同	二一〇
大正	五年	約	三五〇	同	二三〇
		同	三三〇	同	二一〇

注：大正四年、五年ノ上半期、下半期ノ別無シ

大正	年	上半年		下半年		約	計
		大型船	小型船	大型船	小型船		
大正	六年	同	同	同	同	約	三五〇圓
大正	七年	同	同	同	同	同	六五〇
大正	八年	同	同	同	同	同	六九〇
大正	四年	同	同	同	同	同	七〇〇
大正	五年	同	同	同	同	同	六二〇
大正	六年	同	同	同	同	同	七〇〇
大正	七年	同	同	同	同	同	六三〇
大正	八年	同	同	同	同	同	七二〇
大正	四年	同	同	同	同	同	二二〇
大正	五年	同	同	同	同	同	二五〇
大正	六年	同	同	同	同	同	二五〇
大正	七年	同	同	同	同	同	二五〇
大正	八年	同	同	同	同	同	二五〇

(二) 輸出船舶隻數及總噸數

大正	年	總噸數千噸未滿		總噸數千噸以上		同	計
		隻數	總噸數	隻數	總噸數		
大正	四年	一五	一、一九一	二	六、二四五	一七	七、四二六
大正	五年	五三	一、二四五	一〇	三七、六二一	六三	四八、八六六
大正	六年	四〇	九、八六五	三五	一八〇、三五二	七五	一九〇、二一七
大正	七年	三	七一	二九	一五一、〇二二	三二	一五一、〇八三
大正	八年	二一	八、四二五	一八	五二、六七二	三九	六一、〇九七

尙戰時中造船材料及職工賃銀ノ奔騰シタル結果新規注文ニ依ル契約價格亦激騰シタルカ休戰後造船材料及賃銀ノ低落未タ著シカラサルニ拘ラス船舶收益力ノ減退シタルカ爲新造船ノ價格ハ顯著ナル低落ヲ示シ造船所ノ經營難ヲ訴フルモノ少ナカラサルニ至レリ今大正二年以後ニ於ケル本邦新造貨物船ノ價格ヲ掲クレハ左ノ如シ

本邦新造貨物船平均價格表

大正	年	總噸數		重量噸	
		約	一噸當	約	一噸當
大正	三年	同	一六〇圓	同	一一〇圓
大正	四年	同	一八〇	同	一二〇
大正	五年	同	二六〇	同	一七〇
大正	六年	同	三六〇	同	二四〇
大正	七年	同	六〇〇	同	四〇〇
大正	八年	同	一、〇五〇	同	七〇〇
大正	九年	同	一、一〇〇	同	七四〇

大正七年	上半期	小型船	約一、〇五〇	約	七〇〇
	下半期	大型船	約一、二二〇	同	八一〇
大正八年		大型船	同一、二〇〇	同	七〇〇
		小型船	同 四七〇	同	八〇〇
		大型船	同 五三〇	同	三〇〇
		小型船	同 四七〇	同	三五〇

第七節 海事金融ノ狀況

金融圓滑ニシテ資金ノ豊富ナルコトハ事業ノ成立及發展ノ根本要件ナルコト謂フヲ俟タサル所ナルカ大戰前ニ於テハ海運業ニ對スル金融ハ基礎鞏固ニシテ信用アル大汽船會社ニ對スル場合ヲ除クノ外一般ニ極メテ圓滑ヲ缺キ唯例外トシテ海運業者ニ取り極メテ不利ナル條件ヲ以テ少額ノ貸付ヲ爲ス者アルカ又ハ海運業者ト特殊ノ縁故若ハ關係ヲ有スル銀行業者又ハ保險業者ノ資金ヲ融通スルヲ見ルニ過キスシテ海運業ノ改善發展ヲ阻碍スルコト少ナカラサルモノアリ

タリ蓋大戰以前ニ在リテハ海運業者ノ多クハ基礎未タ確實ナラスシテ信用薄弱ナリシノミナラス海運業者カ銀行業者ニ對シ資金ノ融通ヲ求ムルニ當リ通常擔保ニ供スル船舶ニ付テハ大體左ノ如キ不便アリタルヲ以テ銀行業者ハ船主ニ對シ資金ヲ融通スルコトヲ好マサリシナリ

- 一、船價ノ評定ハ専門家ノ智識ヲ以テスルニ非サレハ到底困難ナルカ普通銀行業者ハ此ノ如キ専門ノ智識ヲ有セサルヲ以テ評價上ノ不便少カラサルコト
- 二、船舶ハ價格ノ變動頻繁且大ナルヲ以テ價格下落シ擔保力極メテ薄弱ト爲ルノ虞少カラサルコト
- 三、船舶ハ常ニ危險ノ大ナル海上ヲ航行シ沈没行方不明等ノ厄ニ遭遇スルコト稀ナラサルヲ以テ銀行業者ニ取り擔保品トシテ危險少カラス海上保險ノ制度アリト雖尙此ノ缺點ヲ充分補フニ足ラサルコト
- 四、船舶ハ一旦抵當流レト爲ルモ權利者ハ通常海運業ニ經驗ヲ有セサルカ故ニ自ラ之ヲ運用スルコト殆ント不可能ナルノミナラス船舶ハ價貴ク且用途

ハ限局セラレルヲ以テ相當ノ買主ヲ見出シ之ヲ處分スルコト容易ナラサル
コト

然ルニ戦亂勃發後海運界俄ニ好況ヲ呈シ船主ノ地位ハ著シク改善セラレ事業ノ基礎確實ト爲リ信用増進シタルヲ以テ普通銀行業者ニシテ之ニ對シ貸付ヲ爲スモノヲ生スルニ至リタルカ海運業者ニ對スル貸付ハ事業ノ性質上大部分短期ニシテ銀行業者ハ資金ノ回收運轉ヲ迅速ナラシムルコトヲ得ヘキノミナラス海運界カ活況ノ極ニ在リタル時ニ於テハ事業ノ新設、船舶ノ賣買、新造船ノ注文等ノ爲資金ノ需要頗ル旺盛ナリシカ當時斯業ニ投資スル者ハ一舉ニシテ巨利ヲ博スルコトヲ得ヘク金利ノ高低ノ如キ深ク之ヲ顧慮セサルノ状態ニシテ且貸付期間ハ益短縮セラレ銀行業者ハ有利ナル條件ヲ以テ貸付ヲ爲スコトヲ得ルニ至リ前掲不便ハ事實上殆ント之ヲ避クルコトヲ得タルヲ以テ商業銀行ニシテ海運業者ニ對スル貸付ヲ歓迎スル者頓ニ増加シ一般ニ海事金融ノ改善極メテ顯著ナルモノアリタリ

右ノ如ク海運界ノ好況期ニ於テハ海事金融極メテ圓滑ナルヲ見タルモ休戰條

約成立シ市況沈滞ノ色ヲ示スヤ銀行業者ハ頗ル警戒ヲ嚴重ニシ殆ント貸出ノ請求ニ應セス海運業者ヲシテ資金融通ノ途ヲ失ハシメ市況ノ不振混亂ヲ一層大ナラシメタリ凡ソ金融業者ハ其ノ職能ニ鑑ミ事業界ノ好況ナルニ當リテハ健全ナル事業ノ成立及發展ヲ援助スルヲ要スルト同時ニ一旦經濟界ノ不振ニ陥ルニ際シテハ徒ニ警戒ヲ事トスルコトナク其ノ眞ニ必要アルモノニ對シテハ進ント資金ヲ供給シテ市場ノ沈滞及事業ノ破綻ヲ防止スルノ態度ニ出ツルノ必要アルニ拘ラス休戰後ニ於ケル海事金融ノ圓滑ヲ缺クコト右ノ如シトセハ今後之カ改善ヲ計リ海運及造船ノ進歩發達ニ資スルノ必要大ナルモノアルハ勿論ナルカ此ノ事タル夙ニ官民ノ認ムル所ニシテ曩ニ經濟調査會交通部ニ於テ之カ調査ヲ行ヒタルノミナラス政府ハ日本興業銀行ヲシテ船舶抵當貸付業務ヲ兼營セシムルノ適當ナルヲ認メ第四十帝國議會ニ同銀行法中改正法律案ヲ提出シ其ノ協賛ヲ經タル結果同銀行ハ神戸支店ヲ設ケ新ニ右業務ヲ開始シタルヲ以テ船舶金融ノ改善セラレタルハ疑ナキ所ナルモ戰後海運競争ノ將ニ熾烈ナラムトスルニ當リ能ク之ニ對抗シ更ニ斯業ノ進歩發展ヲ期セムトセハ海事金融機關ノ整備ヲ計リ資

金ノ疏通ヲ最圓滑ナラシムルノ必要益大ナルモノアルヲ認メサルヲ得ス

第八節 海上保険ノ狀況

戦亂勃發ノ當初ニ在リテハ敵艦ノ所在行動不明ニシテ海上ノ危険大ナルモノアリタルヲ以テ海上保険市場ハ一時殆ント閉鎖セラレ或ハ然ラサルモ保険料暴騰シ船舶及其ノ積荷ハ之ヲ保險ニ附スルニ由ナク貿易航海ヲ阻碍スルコト甚シカリシカ我國ニ於テモ聯合諸國ノ施設ニ鑑ミ大正三年九月十二日戦時海上保険補償法ヲ發布シ以テ對外通商及航海ノ恢復及發展ニ資スル所アラシメタリ

同法ノ趣旨トスル所ハ(一)日本ニ船籍ヲ有シ主務官廳ノ定メタル航路ノ航海ヲ爲ス船舶並(二)本邦輸出入貨物右船舶ニ搭載スル積荷ニ對シ低率ノ保険料ヲ以テ戦時海上保険契約ヲ締結スルコトヲ容易ナラシムカ爲主務官廳ノ定メタル保險料率以下ニ於テ前記船舶又ハ積荷ニ對シ戦時海上保険契約ヲ締結シ戰爭ニ因ル損害ヲ填補シタルトキハ政府ハ保險業者ニ對シ其ノ填補額ノ百分ノ八十ヲ補償スルニ在リタルカ同法ノ實施ハ能ク保險契約ノ締結ヲ容易ナラシメ本邦對外

貿易及航海ノ維持發展ニ資スル所大ナルモノアリタリ

今最近ニ於ケル農商務省ノ調査ニ基キ補償法實施中同法ニ依リ補償ヲ受クル豫定ヲ以テ締結セラレタル戦時保險契約ノ件數、契約金額及保險料ヲ掲クレハ左ノ如シ

戦時海上保険補償法成績(大正三年九月二十三日本法)

(實施後之ヲ廢止ニ至ル迄)

會社別	種別	件數	保 險 金 額	保 險 料
内 國 會 社	船 積	九三五	五七五、二〇七、三九一	八、四五六、八四〇圓
	船 荷	三六六、八九一	三、四五二、九〇七、六九五	一一、八五七、六五一
	計	三六七、八二六	四、〇二八、一一五、〇八六	二一、三一四、四九一
外 國 會 社	船 積	一五五	四六、一〇〇、〇〇〇	八一、四〇〇
	船 荷	一四七、七二八	九二八、五九六、四九六	三、〇五二、三五八
	計	一四七、八八三	九七四、六九六、四六九	三、八六三、七五八
總 計	船 積	一、〇九〇	六二一、三〇七、三九一	九、二六八、二四〇
	船 荷	五一四、六一九	四、三八一、五〇四、一六四	一五、九一〇、〇〇九
	計	五一五、七〇九	五、〇〇二、八一、五五五	二五、一七八、二四九

一箇月平均積荷	船 舶	備 考
一四、二九五	三〇	一七、二五八、五三九
一四、三二五		一二一、七〇八、四四九
		一三八、九六六、九八八
		四四一、九四五
		六九九、三九六

備考 本表中一箇月平均ハ本法施行後廢止ニ至ル迄三十六箇月トシテ算出セリ

尙農商務省ノ調査ニ據リ本法ノ補償ヲ與ヘラレタル船舶及積荷保險中本邦船舶又ハ本邦船舶搭載貨物ニ關スル損害額及補償所要額ヲ見ルニ左ノ如シ

船 名	遭難年月日	同 場 所	同 原 因	損 害 額	補 償 所 要 額
八 阪 丸	大正四年十二月二十一日	中 海	敵潛航艇ノ爲撃沈	四、七〇〇、一七五	三、七六〇、一四〇
天 明 丸	同 五年八月 十日	同	同	五六七、八五〇	四五四、二八〇
宮 崎 丸	同 六年五月三十一日	英 國 近 海	同	六、九六七、〇九二	五、五七三、六七三
常 陸 丸	同 年九月二十六日	印 度 洋	拿捕後撃沈	八、三四二、七六〇	六、六七四、二〇八
藻 寄 丸	同 年十月二十日	「カナリ」島南	敵潛航艇ノ爲撃沈	四、四二九、五八二	三、五四三、六六五

同法實施後敵艇ノ横行ニ依ル海上ノ危険ハ益加ハリ殊ニ大正六年二月獨逸ノ無警告潛航艇戰ノ宣言以來聯合船舶ニシテ敵艇ノ犠牲ト爲ルモノ増加シ地中海及北太西洋方面ノ航海ハ危険甚シキニ至リタルヲ以テ保險料ハ暴騰シ從來補償

法ニ依ル政府所定ノ料率ハ數回ニ亘リ改善セラレタルニ拘ラス尙且市場料率トノ間ニハ多大ノ懸隔ヲ生シ保險業者ハ政府所定ノ料率ヲ以テハ保險引受頗ル困難ト爲リ保險市場ニ於ケル消化難ヲ來シ延テ貿易航海ノ發展ヲ阻碍セムトスルニ至リタルカ之全ク一旦效果ヲ收メタル補償法ノ規定モ危険大ニ増加シタル狀勢ノ下ニ適應セサルニ至リタルニ因ルモノナルヲ以テ更ニ適切ナル立法ヲ爲スノ必要認メラレ大正六年七月二十一日戰時海上再保險法ノ發布セラレ九月二十日ヨリ之ヲ實施スルコトト爲リ同時ニ補償法ハ廢止セラレタリ

右再保險法ハ補償法ノ規定ニ更ニ一步ヲ進メ政府自ラ再保險業務ヲ經營スルコトヲ定メ元受保險ノ成約ヲ容易ナラシムルコトヲ趣旨トスルモノニシテ其ノ要綱ハ日本ノ保險業者又ハ日本ニ支店事務所若ハ代理店ヲ有スル外國保險業者ニシテ主務官廳ノ定メタル保險料率以下ニ於テ(一)日本ニ船籍ヲ有スル船舶又ハ(二)本邦輸出入貨物若ハ右船舶ニ搭載スル積荷ニ對シ戰時海上保險契約ヲ締結シ戰爭ニ因ル損害ノ填補ヲ約シタルトキハ保險業者ハ其ノ損害ノ填補ニ付政府ニ對シ再保險ヲ爲スコトヲ得ルニ在リ

本法ハ海上ノ危険甚シキニ際シ戦時保険契約ノ締結ニ頗ル便益ヲ與ヘ通商航海ノ維持發展ニ裨益スル所尠カラサルモノアリタルカ大正七年五月ニ至リ從來ノ航海保険ノ外更ニ期間保険ヲモ行フコトトシ以テ時局ノ進展ニ基ク海上交通ノ利便ヲ進メタリ休戦後海上ノ危険殆ント全ク去リ本法ハ事實上適用ヲ見サルニ至リタルモ大正九年八月三十一日迄之ヲ存続セシメタリ

今戦時海上再保険法ニ據ル再保険契約ノ件數、再保険金額及再保険料並同法ニ據ル本邦船舶又ハ本邦船舶搭載貨物損害高ニ付農商務省ノ調査セル所ヲ掲クルニ左ノ如シ

(一) 戦時海上再保険事業成績(大正九年三月末現在)

種別	件數	再保険金額	
		再保險料	再保險料
船舶	六二七	九四八、七五〇、九五五	一一、三八七、五七六
積荷	一八七、三四二	三、九七八、五四七、三八七	二八、六〇六、九九二
輸送	一五〇、八九七	二、五四六、一二八、九一〇	一七、三六八、五七〇
内輸	三一、四四六	一一、五四七、七六四、〇〇四	四、二八五、三二四
中輸	四、九九九	二七七、六五四、四七三	六、九五三、〇九八

總計

一八七、九九九 四、九二七、二九八、三四二 三九、九九四、五六八

(二) 戦時海上保険法ニ依ル本邦船舶又ハ本邦船舶搭載貨物損害高

船名	遭難年月日	同場所	同原因	損害物件	損害見込額
常陸丸	大正六年九月二十六日	印度洋	撃沈	積荷全損	一一、四六五
徳山丸	同 七年八月一日	北米東海岸	同	船體全損	四、二二一、〇〇〇
平野丸	同 年十月三日	英國近海	同	船體全損 積荷全損	五、五二七、八七一

第三章 内外各國ニ於ケル海運ニ關スル各種制度

第一節 諸外國ニ於ケル航海保護ニ關スル制度

商船ハ平時ニ在リテハ貿易交通ノ必須機關タルノミナラス戰時ニ際シテハ或ハ武装ヲ施シテ戰鬪ノ一部ヲ分擔シ或ハ軍事輸送船ト爲リ或ハ又食料品其ノ他生活必需品ヲ運送シ國防及國民生活上最重要ナル任務ニ服ス是ヲ以テ各國共海運業ニ付テハ全然當業者ノ獨力ノミニ放任スルコトナク必ス何等カノ形式ニ依リ之カ保護及助長ノ策ヲ講スルニ於テ其ノ軌ヲ一ニスト謂フヲ得ヘク殊ニ戰亂勃發後各國共海運業ノ消長ハ直ニ國家ノ存亡ニ影響スルコト甚大ナルヲ痛切ニ感得シタルヲ以テ戰後ニ於ケル自國ノ航海及造船ノ獎勵ヲ策スルコト特ニ熱心ナルモノアリ然レ共各國ニ於ケル海運保護制度ノ内容ニ至テハ其ノ國情及地理上ノ位置ノ如何ニ依リ又ハ時勢ノ變遷ニ應シ必スシモ同シカラス

今諸般ノ材料ニ基キ各國ニ於ケル航海保護制度ノ概要ヲ左ニ記述スヘシ

第一項 英吉利

由來英國ハ通商貿易ニ關シテハ自由主義ヲ採ルヲ以テ海運ニ關シテモ航海獎勵金又ハ造船獎勵金ノ制度ヲ存セス然レ共十七世紀後半ヨリ十九世紀前半ニ涉ル過去二百年間ノ深甚ナル保護政策ハ同國造船業及航海業ヲシテ完全ナル發達ヲ遂ケシメ以テ今日ニ於ケル優勢ナル商船隊ノ地歩ヲ確立シタルカ現今ニ於テモ航路補助ニ近キ制度全然之ナキニ非ス即チ郵政大臣ハ汽船會社トノ間ニ郵便航送契約ヲ締結シ定期郵便航海ノ維持ニ對シ當該會社ニ一定額ヲ支給スルモノニシテ右金額ノ支給ハ郵便物航送ニ對スル報償ノ意味ヲ有スルコト勿論ナルモ優良ナル汽船ノ維持航海ノ正確英國ト海外殊ニ其ノ殖民地トノ迅速ナル交通等ノ國民ニ與フル全般的利益ヲモ考慮セルモノナルコト疑フ容レサル所ニシテ半面ニ於テ海運業ノ保護及獎勵ノ意味ヲ全然包含セスト謂フヘカラス而シテ英國ニ於テ始メテ郵便航送料ノ支給ヲ受ケタル會社ハ彼阿汽船會社及「キユーナー」ド

汽船會社ノ二社ニシテ最近ニ於テハ右兩社ノ外、ロイヤル、メーブル汽船會社及太平洋汽船航業會社モ右料金を支給セラレ
英國ニ於ケル郵便航送料支給ニ關スル制度ノ特色ノ一ハ極メテ少數ノ例外ヲ除クノ外英國ト其ノ殖民地トノ間ノ航海ニ從事スル快速ノ郵便船ニ對シテノミ料金を支給セラレルコトニシテ貨物船ハ原則トシテ全然之ニ與カルヲ得サルコトニ在リ
尙英國ニ於テ特定航海業者ノ保護トシテ舉クヘキハ曩ニ政府カ、キューナード汽船會社ニ對シ「モ」レタニア及「ル」シタニアノ二大汽船建造資金トシテ年二分七厘五毛ノ低利ヲ以テ二百六十萬磅ヲ貸付ケタルコトニ在リ

第二項 佛蘭西

從前佛國ハ世界ニ於ケル海運保護國トシテ第一ニ指ヲ屈セラレタリシカ航海及造船ノ獎勵ニ關スル一九〇六年ノ法律カ一九一八年限リ廢止セラレタル結果現在ニ於テハ此ノ制度ヲ存セス

然レ共郵便定期航海補助ノ名義ヲ以テ大正九年度ニ於テ紐育航路、西印度諸島及中央亞米利加航路、伯刺西爾及「ラ」ブラタ航路、極東濠洲、ニューカレドニア、東阿弗利加及東地中海航路ニ對シ政府ノ支給シタル金額ハ合計三千五百三十萬法ニシテ遙ニ郵便物遞送實費ヲ超過セリ

又最近ニ至リ一定航路ニ關シ當該汽船會社ノ收入カ一定額ニ達セサルトキハ政府ニ於テ其ノ不足分ヲ補給シ若其定額收入ヲ超過スルトキハ政府ニ於テ其ノ剩餘分ヲ取得スル制度ヲ實行シ既ニ二三汽船會社トノ間ニ契約ヲ締結セリ

第三項 北米合衆國

米國中央政府ニ於テ一私人ニ對シ補助金を支給スルコトハ同國憲法上有力ナル反對論アリタルヲ以テ從來時々補助金支給ニ關スル議案ヲ議會ニ提出シタルコトアルモ結局失敗ニ終レリ從テ同國ニ於テハ補助金ナル名目ノ下ニ國帑ヲ支出シテ航海業ヲ保護シタルコトナキモ郵政大臣ハ法律ニ基キ船舶業者ト郵便物運送契約ヲ締結シ郵便航送料ヲ支給スルコトヲ得ルモノトス

今同國政府カ一九二〇年度(自一九一九年六月)ニ於テ内外汽船會社トノ契約ニ基
キ郵便物運送ニ對スル報償トシテ支拂ヒタル金額ヲ掲クルニ左ノ如シ

(一)大西洋横斷航海

(イ)キユーナード汽船會社

三三八、二五五、四七

(ロ)フレンチライン

三九四、六九〇、三九

(ハ)ホワイト、スター

二五八、九六九、七五

(ニ)アメリカンライン(非契約ノ)

六六一、九七二、三九

(二)太平洋横斷航海

(イ)日本郵船株式會社

四九、〇八五、五五

(ロ)大阪商船株式會社

四五、八二五、五四

(ハ)東洋汽船株式會社

五六、四九三、三四

(ニ)オーション、スチームシツプ、コムパニー(非契約ノ分ヲ含ム)

一八八、五四八、九一

(ホ)バシフィツク、メーブル

九九、八四六、〇〇

(ヘ)チャイナ、メーブル

一〇四、一四六、六九

尙一九二〇年商船法第二十四條ニ依リ郵政省ハ船舶院ト協議ノ上將來同國船
舶業者ト契約ヲ締結シ米國郵便物ノ運送ニ對シ相當ノ報償ヲ與フルコトヲ得ヘ
ク右ハ從來ノ郵便航送料ニ比シ稍補助金ノ性質ヲ帶フルニ至ルヘキモ未タ之ヲ
實行シ居ラス

第四項 スカンデナヴィア諸國

瑞典政府ハ航路補助又ハ郵便航送料ノ名義ヲ以テ船舶業者ニ對シ助成金又ハ
報償ノ意味ヲ有スル補助ヲ支給スルコト無キモ同國內ニ於テ建造セラレタル船
舶ヲ以テ内外國航路ニ從事スル汽船會社ニ對シ比較的寛大ナル條件ノ下ニ資金
ノ貸付ヲ爲シ現ニ瑞典東亞汽船會社及北星線ノ兩社ハ孰レモ嘗テ政府ヨリ貸付
ヲ受ケタルコトアリ而シテ前者ハ曩ニ蘇士運河通航料ノ貸付ヲ受ケタルモ數年
前其ノ全部ヲ政府ニ返納シタリト謂フ

諾威ハ現今船舶業者ニ對シ原則トシテ補助金ヲ支給スルコトナキモ諾威及西
班牙間ノ航路ニ對シ同國政府ハ年額五萬五千クロンヲ支給シ居レリ尤モ右ハ同

第三章 内外各國ニ於ケル海運ニ關スル各種制度 第一節 諸外國ニ於ケル航海保
護ニ關スル制度 二〇九

航路ニ依ル諾威ノ魚類輸出業者補助ノ意味ヲ以テ交附セララルルモノニシテ航路自體ノ補助ニ非ス

丁抹ニ於テハ大戰前同國船舶業者ニ對シ(一)農產物輸出補助金(二)郵便物補助金(三)重要航路ニ對スル日々ノ航海維持補助金ヲ支給シタルモ現在ニ於テハ名義ノ如何ヲ問ハス直接又ハ間接ノ補助金ヲ支給セス

第五項 其ノ他ノ諸國

和蘭ニ於テハ純然タル航路補助金ヲ支給セララルル汽船業者現存セサルモ左ノ四航路ニ對シ郵便航送料ヲ支出シ居レリ

イ、和蘭、蘭領東印度間

ロ、和蘭、英國間

ハ、和蘭、米國間

ニ、和蘭、蘭領西印度間

尙和蘭南米(亞爾然丁伯刺西爾)間及蘭領東印度支那日本間ノ航路ヲ夫々經營セ

ルニ汽船會社ハ其ノ創立以來數年ニ亘リ政府ヨリ補助金ノ貸下ヲ受ケ目下其ノ元利金濟崩ノ爲政府ニ之カ返納ヲ爲シツツアリ

白耳義ハ世界的商港ヲ有シ輸出入貿易額ノ如キ列強ニ比肩スルニ足ルト雖從前同國ノ海運ハ頗ル振ハス其ノ輸出入ノ如キ主トシテ外國貿易船ニ依リ行ハルル有様ニシテ航海業ニ關シ特別ノ保護ヲ設クルコト無リシカ例外トシテ政府ハ三汽船會社ノ株式各二百萬法ヲ引受ケタルノ外一九一六年七月設立セラレタル「ロイド、ロイヤル、ベルジユ」汽船會社ニ對シ利子ノ支拂及元金ノ償還ヲ保證シ以テ特別ノ保護ヲ與ヘ居レリ

伊太利モ亦從來佛國ニ亞キタル海運保護國ニシテ造船獎勵及航海保護ノ爲年々多額ノ國帑ヲ費シ試ニ戰前同國政府カ定期航海經營者ニ對シ支給シタル補助金ヲ見ルニ年額二千三百九十萬「リラ」ニ上リタルカ開戰後右補助制度ヲ廢止シ現今ハ政府ノ計算ニ於テ各會社ヲシテ定期航路ノ經營ニ當ラシメ政府ハ之ニ對シ貨客ノ運賃ニ應シ八割乃至三十五割ノ金額ヲ支給シ居レリ最近傳ヘラルル所ニ依レハ右制度ハ近ク廢止セラレ再ヒ戰前ノ補助制度ニ復歸スヘシト謂フ

西班牙ニ於テハ一九〇九年以前ニ在リテハ船舶ニ對シ直接ニ何等ノ補助金ヲ支給セサリシカ同年ヲ以テ海運獎勵ノ爲航業及交通獎勵法ヲ制定シ政府ハ遠洋定期航路六線ニ付テハ「コンパニア、トランスアトランテイカ」會社ト一九一〇年六月一日以降二十箇年間ノ契約ヲ締結シ同會社ニ對シ年額九百六十二萬七千六百十一「ベセタ」三十四「センチモ」ヲ支給シ又近海定期航路六線ニ對シテハ其ノ各經營汽船會社ニ對シ年額合計五百八十五萬五千七百七十三「ベセタ」二十四「センチモ」ヲ支給シ居レルカ後者ハ最近契約期間滿了シタルヲ以テ契約更新方手續中ナリ

葡萄牙政府ハ大戦前數個ノ會社ニ對シ航路補助金ヲ支給シタルカ現在ニ於テハ名義ノ如何ヲ問ハス又何人ニ對シテモ航路ニ關スル補助金ヲ支給セス

伯刺西爾政府ハ北米歐洲並自國沿岸航路ニ從事シツツアル同國最大ノ汽船會社タル「ロイド、ブラジレイロ」ヲ直營スルノ外同國沿岸諸港間ノ航行ニ從事スル伯國沿岸航行會社「アマゾン」河汽船會社、「サンフランシスコ」河航運會社及其ノ他ノ六會社ニ對シ年額合計三百十四萬九千二百「ミルレ」ノ補助金ヲ支給ス

亞爾然丁ニハ航路補助ノ制度ナク又郵便物ノ航送ニ對シテハ料金ヲ支給スル

ノ代リトシテ出入港ニ於テ或種ノ便宜ヲ與フルニ過キス

智利政府ハ年額二十八萬「ベソ」迄ノ補助金ヲ支出スル權能ヲ有シ目下同國南部諸島ト本土ト連絡船ニ對シ其ノ航行ノ都度補助金ヲ支給シ居レルモ其ノ金額及補助金ヲ受クル者ハ一定セス

支那ニ於テハ大正九年十一月航業獎勵條例ヲ發布シ交通部ノ指定シタル支那本國及外國諸港間ニ於テ定期航海ニ従事スル船舶ニシテ一定ノ資格ヲ有スルモノハ同條例ニ依リ獎勵金ヲ受クルコトヲ得ルモノトセリ

該船舶ノ資格ハ左ノ如シ

- (一) 遠洋航行船ニ在リテハ總噸數四千噸以上、一時間十一海里以上ノ速力ヲ有シ且船齡十五年以内ノ鋼鐵製ノ汽船
- (二) 遠洋ヲ航行セサル船舶ニ在リテ總噸數二千噸以上、一時間十海里以上ノ速力ヲ有シ且船齡二十年以内ノ鋼鐵製汽船
- (三) 國際河流航行ノ船舶ハ總噸數八百噸以上、一時間八海里以上ノ速力ヲ有シ且船齡二十年以内ノ鋼鐵製又ハ木製ノ汽船

而シテ其ノ支給セララルル獎勵金ハ遠洋航行船ニ在リテハ一千海里ニ對シ噸數一噸ニ付二角、又遠洋ヲ航行セサル船舶ニ在リテハ噸數一噸ニ付一角トス

第二節 諸外國ニ於ケル戰時船舶管理制度

世界大戰ノ勃發後獨塊船舶ノ航海ヲ廢止シタルハ勿論聯合國船舶ニ在リテモ軍事其ノ他ノ必要ニ依リ自國政府ノ徵用スル所ト爲リ通商界ヲ撤退シ加フルニ獨逸國艦艇ニ依リ擊沈セララルルモノ次第ニ増加シタルカ一面ニ於テ軍事輸送及生活必需品輸送ノ必要次第ニ緊切トナリ船舶ハ世界ヲ通シ不足ヲ訴フルニ至リタルヲ以テ各交戰國ハ言フ迄モナク中立國ニ在リテモ船腹ノ不足ヲ調節セムカ爲船舶ノ運用及處分ニ各種ノ制限ヲ加ヘ造船工場ヲ管理シ或ハ更ニ進ンテ船舶及造船工場ヲ政府ノ使用權内ニ移シタルノミナラス各海運國ノ戰後ニ於ケル自國ノ航海及造船ノ發展ヲ圖ラムカ爲各般ノ施設計畫ヲ實行スルニ至リタルカ是等ノ制度及施設ノ詳細ハ曩ニ當省臨時調查局調査ニ係ル印刷物各國戰時船舶管理制度概要及各國戰時船舶管理制度概要追加中ニ記述シアルヲ以テ茲ニハ單ニ

各國ノ實施シタル制度施設ノ要目ヲ摘記シ參考ニ資スルニ止ム即チ左ノ如シ

第一 船舶其ノ他ノ徵發及管理並其ノ運用及處分ノ制限等ニ關スル制度

(一) 船舶及造船工場等ノ管理

(二) 船舶及屬具等ノ輸出入其ノ他ノ禁止

(三) 備船及船舶貸借ノ制限

(四) 航海ノ制限

第二 航海、造船、海事金融、海上保險及船員ニ關スル施設

(一) 航海ノ助長

イ、航海ノ保護

ロ、特殊汽船會社ノ設立

ハ、海運事業ノ官營

(二) 造船ノ契勵

(三) 海事金融機關ノ整備

(四) 戰時海上保險ノ施設

(五) 船員ノ保護、救済及養成等ニ關スル施設

右ノ内第一ニ掲ケタル船舶及造船工場等ノ管理ニ關スル制度ハ休戰條約成立以來漸次其ノ必要ヲ見サルニ至リタルノミナラス海運界カ戰後ノ不況期ニ入ルニ及テハ船舶其ノ他ノ運用及處分ヲ自由ナラシムルノ必要アルヲ以テ各國共次第ニ右制度ノ運用ヲ緩和シ現在ニ於テハ殆ント之ヲ存置スルモノナシ又第二ニ掲ケタル航海及造船等ニ關スル戰時施設ニ至テモ其ノ儘之ヲ戰亂終熄後繼續實行スヘカラサルモノアルヲ以テ各國ハ一般經濟界及海運界ノ狀態ノ變遷ニ應シ右施設ニ對シ顯著ナル變更ヲ加ヘ又ハ其ノ實行ヲ中止スルニ至レリ

第三節 本邦ニ於ケル戰時船舶管理令ノ施行及實績

大戰勃發以來世界ノ海運國ニ於テハ孰レモ戰爭ノ影響ニ因ル船舶ノ不足ヲ訴フルニ至リシカ殊ニ歐洲ノ交戰國及戰局ノ中心ニ近接セル中立國ニ在リテハ特ニ其ノ程度ノ甚シキモノアリタルヲ以テ夙ニ船腹調節ノ必要ヲ認メ或ハ自國船

船及造船工場ヲ徵發管理シ或ハ船舶ノ運用及處分ニ對シ制限ヲ加フル等諸種ノ制度ヲ設ケタルカ本邦ハ戰局ノ中心ヲ距ルコト遠ク戰亂ノ初期ニ至リテハ前記諸國ニ比シ戰爭ノ惡影響ヲ被ルコト輕微ナリシヲ以テ船舶及造船所ニ對シテハ遠洋航路補助法及造船獎勵法等既存ノ法規ニ基ク場合ヲ除クノ外原則トシテ何等ノ制限ヲ加フルコトナク必要ニ應シ行政上ノ措置ヲ執ルニ過キサリシカ戰局ノ進展ニ伴ヒ船舶ノ不足愈甚シク運賃、備船料及船價ヲ激騰セシメタルカ運賃ノ暴騰ハ其ノ負擔力ノ大ナラサル貨物ノ輸出ヲ極メテ困難ナラシメ正ニ發展ノ機運ニ向ヒツツアリタル本邦對外貿易ハ之カ爲阻礙セラレムトスルノ狀態ヲ示シタルト同時ニ國內ニ於ケル生活必需品ノ價格ヲ奔騰セシメ國民生活ヲ危殆ナラシムルノ虞ヲ生スルニ至リタルカ他方ニ於テ聯合與國ハ戰局ノ進行ト共ニ船舶ノ需要益急ヲ告ケ帝國政府ニ於テ船舶ノ援助ヲ爲スコトヲ要スルニ至ルナキヲ保シ難キ狀態ヲ示スニ至レルヲ以テ政府ハ外ハ共同等畫ノ便宜ヲ進メ内ハ產業運輸ノ調節ヲ圖ル爲大正六年九月緊急勅令ヲ以テ戰時船舶管理令ヲ制定シ同年十月一日ヨリ之ヲ施行シ船舶統制ノ全權ヲ遞信大臣ノ掌裡ニ收メタリ

第三章 内外各國ニ於ケル海運ニ關スル各種制度 第三節 本邦ニ於ケル戰時船舶管理令ノ施行及實績 二一七

爾來船舶ハ大ニ緩和セラレ運賃及備船料亦著シク調節セラレタル結果貿易ノ伸長及一般海運業ノ堅實ナル發達ヲ誘導シタルハ實ニ管理令ノ效果ト謂フヘク又日米船鐵交換及對米船腹援助カ支障ナク行ハレ能ク聯合國援助ノ目的ヲ達シタルト同時ニ本邦造船業ノ材料難ニ一面ノ活路ヲ開キ斯業ノ進歩助長ヲ期スルコトヲ得タルモ亦管理令ノ嚴存シタルニ依ル所大ナリト謂ハサルヘカラス

休戰後本令ヲ嚴行スルノ必要歎ミタルヲ以テ政府ハ時局ノ變化ニ應シ其ノ運用ヲ緩和スルコトニ依リ船舶利用ノ範圍ヲ擴大シ以テ貿易及海運ノ發達ヲ阻碍スルコト無カラムコトヲ期セリ

因ニ本令ハ第四十帝國議會ノ承認ヲ得タルモノニシテ講和條約調印ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ其ノ效力ヲ失フヘキコトヲ規定セラレタルヲ以テ大正九年六月二十七日限り失效シタルモノトス

今本令及本令施行規則實施後大正九年三月末ニ至ル期間ニ於ケル處理件數ヲ示セハ左表ノ如シ

(一) 管理令第一條ニ依ル許可申請件數

船籍港所 在地別	總申請數		許可數		不許可數		取 下		以上處理済計	
	隻	噸數	隻	噸數	隻	噸數	隻	噸數	隻	噸數
内地	六〇	一、〇、三三三	五六	一、八、〇、三三	一三	一、六、〇、〇〇	六〇	一、〇、三三三	六〇	一、〇、三三三
關東州	七	二、七、一八八	七	二、七、一八八	〇	〇	七	二、七、一八八	七	二、七、一八八
朝鮮	三	五、一九七	三	五、一九七	〇	〇	三	五、一九七	三	五、一九七
臺灣	六	四、五三三	六	四、五三三	〇	〇	六	四、五三三	六	四、五三三
計	共	一、四、一、三六七	共	一、三、八、七二七	一三	一、六、〇、〇〇	共	一、四、一、三六七	共	一、四、一、三六七
内地	一八	一、五、八六六	一七	一、五、三四四	一	〇	一八	一、五、八六六	一八	一、五、八六六
關東州	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
朝鮮	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
臺灣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	一八	一、五、八六六	一七	一、五、三四四	一	〇	一八	一、五、八六六	一八	一、五、八六六
内地	一六	九、七五	一六	九、八五	〇	〇	一六	九、七五	一六	九、七五
關東州	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
朝鮮	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
臺灣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	一六	九、七五	一六	九、八五	〇	〇	一六	九、七五	一六	九、七五

第三章 内外各國ニ於ケル海運ニ關スル各種制度 第三節 本邦ニ於ケル戰時船舶管理令ノ施行及實踐 二一九

船籍港所 在地別	總申請數	總噸數	許可數	總噸數	不許可數	總噸數	取	下	以上處理済計	引渡				計	
										製造中	製造中	製造中	製造中		
内地	11,000	2,700	1	2,700	0	2,700	0	0	2,700	1	0	0	0	1	8,265
關東州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,764
朝鮮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,356
臺灣	1	2,990	1	2,990	0	2,990	0	0	2,990	1	0	0	0	1	8,665
計	11,000	2,700	1	2,700	0	2,700	0	0	2,700	1	0	0	0	1	38,665

(一) 管理令第二條ニ依ル許可申請件數

(二) 管理令第三條ニ依ル許可申請件數

船籍港所 在地別	總申請數	總噸數	許可數	總噸數	不許可數	總噸數	取	下	以上處理済計	外國諸港間航行				計	
										製造中	製造中	製造中	製造中		
内地	11,000	2,700	1	2,700	0	2,700	0	0	2,700	1	0	0	0	1	8,265
關東州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,764
朝鮮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,356
臺灣	1	2,990	1	2,990	0	2,990	0	0	2,990	1	0	0	0	1	8,665
計	11,000	2,700	1	2,700	0	2,700	0	0	2,700	1	0	0	0	1	38,665

(四) 施行規則第四條ニ依ル届出件數

第三章 内外各國ニ於ケル海運ニ關スル各種制度 第三節 本邦ニ於ケル戰時船舶 二二二

第四章 内外各國ニ於ケル海員ノ狀況

本章ニ對シテハ通信省臨時調査局ノ調査ニ係ル印刷物中高等海員ノ養成ニ關スル調査、英國ニ於ケル下級海員ノ養成保護及救済ニ關スル施設概要、船員ニ關スル調査、千九百十七年中ニ於ケル英國船員ノ戰時勤務、英國ニ於ケル船員保護ノ設備ニ關スル調査參照

第一節 海員需要供給ノ狀況

戰亂勃發以來我海運事業カ急激ナル發達ヲ爲シタルト共ニ造船事業亦著シキ發展ヲ爲シ新造船船ノ隻數激増シタルヲ以テ之カ乗組ニ要スル海員ノ供給ニ困難ヲ來タシ特ニ船舶職員ノ供給頗ル圓滑ヲ缺クニ至レリ船舶職員ニ關シテハ戰前ヨリ遠洋各航路ニ配船ヲ有シ相當經驗アル職員ヲ有セル社船ニ在リテハ補充上格別支障ヲ見ナリシモ從來多ク近海方面ニ在リシ社外船カ各地配船ノ不足セル機會ニ乘シ其航域ヲ擴張シ世界各方面ニ活躍スルニ至ルヤ此等船舶ノ職員ハ外國語ノ素養アルモノ少ナキヲ以テ各地ニ於ケル諸種ノ交渉ニ頗ル不便ヲ感シ

支障ヲ來タシタル事尠シトセス併シナカラ十分素養アリ相當經驗ヲ有スル船舶職員ヲ求メントスルモ大部分ハ何等秩序アル教育ヲ受ケタルモノニアラスシテ斯カル優良ナル海員ハ官立商船學校卒業生ヲ除キテハ殆ント之ヲ得難キ實狀ニ在リタリ茲ニ於テ政府ハ大正六年八月船舶職員試驗科目ニ改正ヲ加ヘテ高等職員ニ對シ英語其他ノ科目ヲ加フルコトナシ船舶職員ノ素質改善ヲ企圖スルト共ニ大正七年度ヨリ官立商船學校收容人員ヲ増加スルト共ニ此等ノ需要ヲ充タサントスル所アリタリ

右ノ如ク船舶職員ノ補充難ハ始メ遠洋航路ニ於テ著シカリシカ戰局ノ發展ハ船舶ノ需要ヲ喚起スルコト頗ル急ニシテ船舶ノ急造ヲ要シ新造船益々増加スルニ從ヒ船舶職員ノ供給到底之ニ伴ハサルノ情勢ヲ呈シ船舶所有者ハ優良ナルモノヲ撰擇シテ之ヲ採用スルノ餘裕アラサルノミナラス法定定員數ヲ得ントスルニ多大ノ困難ヲ感シ苟クモ海技免狀ヲ受有スル者ハ其技能ノ如何ニ拘ラス直チニ採用セラレ而モ著シキ高給ヲ以テ雇入レラルルニ至レリ此ノ如クニシテ船舶職員ノ不足ハ遠洋航路ノミナラス近海沿海ニモ波及スルニ至リタルヲ以テ政府

ハ大正八年六月更ニ試験制度ニ適當ノ改正ヲ加ヘ同科目ニ一、大輕減ヲナスト共ニ下級免狀ヲ以テ上級免狀ニ代用シ得ル範圍ヲ一部擴張シテ職員ノ需給關係ヲ調節スル所アリ更ニ引續キテ大正九年一月船舶職員法關係法令ヲ改正シテ免狀代用ノ範圍ヲ一層擴張シテ職員ノ需給關係ヲ圓滑ナラシメンコトヲ期セルヲ以テ其需給關係ハ漸ク調節サルルニ至レリ

次ニ下級海員ニ付テ見ルニ相當經驗アル優良海員ノ不足ハ高級海員ニ於ケルト同様ノ狀況ニシテ此等優良海員ハ多年ノ乗船履歷ニヨリテ其技能ヲ習得シタルモノナルカ陸上諸工業ノ爲メニ誘致サレテ轉職シ或ハ外國船ニ轉船シタルモノ尠カラス漸次素質ノ低下ヲ來タセリ又優良海員ニ對シテノミナラス一般下級海員ニ對シテモ補充難ノ聲アルニ至レリ是ハ船ノ激増セルニ依ルモ戰時中ニ於ケル諸工業ノ異常ナル發達ハ勞働者ノ一大需要ヲ喚起シ陸上ノ諸産業モ等シク勞働者ノ不足ヲ告クル狀況ニアリタルト同一ノ關係ニ依ルモノモノナリ

此ノ如キ狀況ナリシヲ以テ各船主ハ海員ノ待遇ヲ改善シテ之ヲ誘致スルニ努メタルノミナラス政府亦海員接濟會ニ對シ補助金額ヲ増給シテ其養成補充ニ盡

サシムル所アリ其補充難ハ未タ船舶ノ運航ニ支障ヲ及ホスノ程度ニ至ラスシテ辛フシテ戰時中ノ難關ヲ切抜クルコトヲ得タリ

我國ニ於ケル海技免狀受有者及船員手帖受有者ニ關スル戰前ヨリノ統計ヲ示セハ左ノ如シ

海技免狀受有者

船員手帖受有者

大正三年末	三〇、四三四	二二三三、九六八
同 四年末	三二、一一六	二四四、九七七
同 五年末	三四、三二七	二五六、九五〇
同 六年末	三六、八九七	二七三、四三八
同 七年末	三九、二三一	三〇〇、一四四
同 八年末	四一、三九二	三二二、二八六

歐洲諸國ニ於テハ戰時中船舶ノ喪失サレタルモノ多キノミナラス造船噸數亦平時ニ比シテ激減セルモ軍需工業ニ勞働者ヲ要セシコト多ク海員ノ供給亦概シテ潤澤ナラサルモノアリ英國ニ在リテハ開戦ト共ニ海軍豫備員ノ召集及商船乘

組員ノ海軍徵募トナリ或ハ海上勤務ヨリ或種ノ外國人及亞細亞人ヲ排斥シタル結果海員ノ供給著シク缺乏ヲ告ケタルヲ以テ同國政府ハ海員ノ養成ヲ以テ緊急トナシ養成機關ノ設立待遇方法ノ改善ヲ以テ海員志願者ノ誘致ニ努ムル所アリタリ

米國ニ在リテハ千九百十七年四月參戰ト共ニ商船一千萬噸新造ノ計畫ヲ樹ツルヤ船舶ノ激増ニ伴フ海員補充問題ハ焦眉ノ急ヲ告ケ新造船ノ竣工スルモ空シク之ヲ擁スルノミニシテ海員不足ノ爲メ之ヲ運航シ得サルニ至ラサルヤニ付テハ頗ル憂慮スヘキ狀況ニ在リタリ海員特ニ高級海員ハ相當乗船ノ履歷ト學術ノ修得ニ俟タサルヘカラスシテ一朝一夕ニ養成シ得ヘキモノニアラス而シテ一方米國ニ於ケル同國船乗組海員中本國人ハ其四割強ニ過キス然レトモ此等ノ米國人中多數ノ歸化人アリ純粹ノ米國人ハ全海員ノ三割強ニ過キスシテ各船舶共十分ノ定員ヲ補充スルヲ得ス每航缺員ヲ以テ航海ヲナササルヘカラサル狀況ニ在リタリ同國船舶院ニ在リテハ先ツ高等海員ヲ養成シ次テ下級海員ヲ募集セントスルノ計畫ヲ樹テタリ即チ多數ノ無料航海及機關學校ヲ設立シテ船舶職員ノ速

成ニ努ムルト共ニ朝野協力海員募集ニ努ムル所アリシモ豫期ノ成績ヲ舉クルヲ得ス戰時中ヲ通シテ海員ノ補充ハ米國ニ於テ頗ル困難トセラレル所タリシカ政府ノ獎勵效ヲ奏シ最近ニ於ケル米國人ノ外國人ニ對スル海員就職ノ割合ハ増加シ同國全海員ノ五割強ヲ占ムルノ狀況ヲ見タリ

戰時中ヲ通シテ海員ノ需給關係圓滑ナラス我國ヲ始メ英米各國共ニ其供給潤澤ナラサルニ拘ラス需要ハ殆ント無限ナリシ爲メ海員ノ品質及能率ハ共ニ低下ノ傾向アリシモ反之其待遇ハ益々改善サルルニ至レリ各船主ハ海員ニ對シ給料ノ増額ヲナシ其他戰時割増手當航海手當等ノ支給ヲ以テシ又ハ年金養老災害救濟方法ヲ講シ海員ノ誘致ニ努メタルヲ以テ其待遇ハ著シク改善サレ其收入ノ如キモ戰前ノ數倍ニ達セリ今下級海員ノ給料ニ關シ我國及英米兩國ニ於ケル戰前ト戰爭中トヲ比較スルニ左表ノ如クナルカ物價ノ昂騰ニ伴ヒ益々増加サレ戰爭終了後ニ在リテモ低下スルニ至ラス依然同様ノ支給ヲ受ケツツアリタリ

時局前及時局後ニ於ケル日英米船員給料ノ騰落

職名	英國		米國		日		本	
	大正三年	大正七年	大正三年	大正七年	大正三年	大正七年	大正三年	大正七年
職名	月給額	月給額	月給額	月給額	月給額	月給額	月給額	月給額
水夫長	五・一六	一・二〇〇	三五	三五	二一	二一	三三	三三
大工	六・〇六	一・三〇〇	四〇	九〇	二一	二一	三〇	三〇
舵夫	—	一・一〇〇	三五	七七・五	一七	一七	二四	二四
水夫	—	一・〇〇〇	三五	五五	一三	一三	一八	一八
火夫長	—	一・一〇〇	—	—	二一	二一	三〇	三〇
油差	—	一・一〇〇	四〇	八〇	一八	一八	二五	二五
火夫	—	一・一〇〇	三五	七五	一四	一四	二〇	二〇
石炭夫	—	一・一〇〇	三五	六五	一一	一一	一六	一六
平均	五・一四	一・一〇〇	三五	七五・三五	一七	一七	二三・二五	二三・二五

(一) 本表ハ何レモ遠洋航路汽船船員ノ給料ヲ示スモノニシテ英國船員給料ハ同國海軍協議會ニ於テ大正六年協定シタルモノノ内ヨリ戰時手當一磅ヲ減シタル額又米國船員給料ハ大正七年六月同國勞務局船主及船員間ニ協定セラレタルモノトス

(二) 本邦船員給料ハ各年末統計ニ依ル

第二節 諸外國ニ於ケル海員養成及保護

ニ關スル制度

第一項 海員養成

重要海運國タル英國及米國ニ於ケル海員養成ニ關スル概況ヲ述ヘンニ先ツ英國ニ在リテハ從前ヨリ下級海員ノ養成機關トシテ各地ニ私設航海學校アリテ夫々練習船ヲ備ヘ貧困者ノ子弟タル少年ヲ收容シテ訓練シ之ヲ海兵又ハ海員トシテ養成シ其成績頗ル見ルヘキモノアリ政府ハ之ヲ保護シ獎勵セリ然ニ戰亂ノ勃發ニ伴ヒ海員ノ需要激增シ此等ノ私立養成所ノミニテハ到底十分ナル供給ヲナシ得サルヲ以テ英政府ニ在リテハ航業聯合會及水火夫組合等ト交渉シ一九一八年九月「グレブセン」海員養成所ヲ設立シ海員短期間速成ヲ企圖シ廣ク志願者ヲ募集シタリ同校ニハ練習船ヲ備ヘ船舶ニ關スル實用的ノ知識ヲ教授シ水夫ハ平均十一週間石炭夫ハ約六週間之ヲ訓練スルナリ同校ノ設立ハ一時的ノ施設トシテ計畫サレシモノナルモ戰後モ廢止スルコトナク存續スルコトナレリ設立後

滿一ケ年間ノ卒業生千四百名ナリ高等海員ニ對シテハ同國ハ海運國トシテ古來
 海事教育ノ機關整備シ子弟ヲ學校ニ收容シテ秩序的ノ教育ヲナスモノト受験準
 備ノ爲メ一時的ニ講習ヲナスモノトアリ而シテ其教育タルヤ實地ニ重キヲ置キ
 テ養成スルヲ特色トセリ尙同國ニ在リテハ優良海員養成ノ目的ヲ以テ政府ニ於
 テ海員養成案調査委員ヲ任命シ同委員ノ調査報告ハ大正八年末發表セラレタル
 所ナルカ其概要左ノ如シ同報告ハ海員ニ對シ最早帆船練習ヲ必要トセサルヘシ
 ト述ヘタリ

- (一) 一ノ國立團體ヲ設立シテ海員養成計畫ヲ監督管理セシムルコト
- (二) 航海科機關科司厨科ヲ設置シ入學年齡ヲ十六歳以下トスルコト
- (三) 生徒ニハ海上生活ニ必要ナル技術ノ外普通教育ヲ授クルコト
- (四) 海軍省ヨリ練習船ノ貸與ヲ受ケ卒業者ハ海軍豫備役ニ編入スルコト
- (五) 地方學務當局ト協調ヲ保チ又各地小學校備付ノ諸器具ヲ海員養成所ニ
 テモ使用シ得ル事トスルコト
- (六) 生徒ハ一等水夫 (able seaman) ノ資格ヲ得ル迄ハ國立團體ノ指定スル船主

又ハ海事組合ニ見習員トシテ乗船スヘキコト

(七) 右見習員ハ見習中初年度ハ一等水夫賃金ノ二割五分又次年度ヨリ見習
 滿了迄其五割ヲ手當トシテ支給スルコト

(八) 海員退職後ノ國家的保護方法ヲ定ムルコト、

(九) 地方學務當局ハ海員養成ニ對シ財政的援助ヲ爲シ船主ハ本計畫ニ要ス
 ル資本金及經常費ノ二割五分ヲ寄附スルコト

米國ニテハ戰前ニ在リテハ州知事ヲシテ航海學校ヲ設立セシメ練習船トシテ
 軍艦ヲ貸與シ船内ニ於テ學術及實地航海ノ練習ヲナシメツアアリシカ其學校
 數多カラス教育程度亦概シテ低ク不振ノ狀況ニ在リタリ然ルニ這般ノ戰亂以來
 船舶職員及下級海員ノ不足ヲ告クルヤ其補充養成ノ目的ヲ以テ船舶院内ニ海員
 部ヲ設ケ甲板部及機關部職員速成ノ爲メ各州ニ多數ノ無料航海學校及機關學校
 ヲ設立シ甲板部職員ニ付テハ入學資格トシテ最低二ケ年間ノ海上履歷ヲ有スル
 者其他ヲ收容シテ六週間ノ短期間内ニ於テ航海ニ關スル知識技能ヲ修得セシメ
 又機關部職員ニ付テハ入學資格ハ同シク最低二ケ年間ノ海上履歷ヲ有スル者及

海上履歴二ケ年ニ達セス又ハ全ク海上履歴ナキモ一定ノ専門知識ヲ有スル者ヲ收容シテ四週間ノ短期間内ニ修業セシムルコトトナシ此等ノ學校數航海學校四十機關學校八兩者ヲ合セテ四十八校ヲ算セリ又下級海員ニ關シテハ各州到ル所ニ藥種店ヲ指定シテ下級海員ノ募集事務ヲ取扱ハシメ海員志願者ヲ登録セシメタリ此等登録所ハ六千八百五十四ヶ所ヲ算セリ而シテ海員志願者ハ二十歳以上三十歳以下ノ青年ニシテ米國市民タルコトヲ要シ海上履歴ヲ有スルト否トヲ問ハス下級海員練習所ニ收容シ毎月練習手當三十弗ヲ給與シ一ヶ月乃至三ヶ月ノ期間ヲ以テ修業セシメ商船船員ノ補充ヲ圖レリ右下級海員練習所ハ七ヶ所ヲ存セリ尙米國ニ在リテハ外國貿易船トシテ登録セラレタル米國船舶ニ乗組メル當直士官ハ凡テ米國市民タラサルヘカラストセル米國航海法ノ規定ヲ戰爭繼續中ニ限リテ之カ實施ヲ停止シ船舶職員供給ノ緩和ニ努ムル所アリタリ

第二項 海員ニ對スル保護救濟ノ施設

重要海運國タル英米兩國ニ於ケル海員ノ保護救濟ニ關スル制度ノ概要ヲ述ヘ

第一 英吉利

這次ノ戰亂ニ際シ船舶カ軍事行動上偉大ナル功績ヲ致セルハ言フヲ俟タス而シテ之カ乗組員ハ危險ヲ冒シテ其職務ヲ努メタルコト其功績軍人ト相撰ハサルモノアリ英國ニ在リテハ之カ保護救濟ニ關スル政府ノ平時及戰時中ニ於ケル施設ノ概要左ノ如シ

- (一) 疾病救濟 海員ノ過失又ハ不行跡ニ基カサル疾病ノ治療竝ニ看護及右ニ因リ死亡シタル際ノ葬儀ノ諸費用ハ船主ノ負擔トセリ
- (二) 災害賠償 勞働者災害賠償法ニ依リテ海員モ一般勞働者ト等シク職務上ノ災害ニ因リ死亡シタルトキハ遺族ハ救濟金ヲ受ケ天災又ハ職務上ノ疾病ニ因リ勞働不能トナリタルトキハ一定額ノ手當ノ支給ヲ受クルモノトナセリ
- (三) 養老年金 年齢七十歳ヲ越エ一定額ノ收入ナキモノハ一週最高五志ノ年金請求權アリ

- (四) 疾病失業保険 海員ハ疾病及失業ノ保険ニ加入スルノ義務ヲ有シ罹病又ハ失業ノ際ハ醫療又ハ一定ノ給與ヲ受クヘシ
- (五) 戦時補償 戦争行爲ニ因リ死傷シタルトキハ年金又ハ一時金ヲ給與シテ補償スルノ規定ヲ設ケタリ
- (六) 船員所持品戦時保険戦争行爲ニ因ル船員所持品ノ亡失ニ對シ始メ低率ヲ以テ戦時保険ヲ付シ得ルコトトセシカ後ニハ無償ニテ同保険ニ加入セシメタリ

尙政府ハ商船ノ士官及海員ニ對シ戦時國家ニ重要ノ關係アル業務ニ從事スルモノトシテ軍務服役ヲ免除シタリ

右ノ外民間ニ於テ種々ノ公共團體設立サレ政府ノ補助及民間ノ寄附ニ依リ船員ノ待遇ノ改善、疾病死亡ノ際ニ於ケル船員及遺族ノ救助、海員慰安等ノ施設ヲナスモノ多シ

第二 北米合衆國

米國ニ在リテハ國立海事病院ヲ設ケテ疾病海員ヲ收容シテ之ヲ治療シ又海員

カ外國ニ在リテ疾病ニ罹リ又ハ其船舶難破シタル等ノ際ハ國庫ノ費用ヲ以テ之ヲ保護シ又ハ送還シタルカ這次ノ戦亂ニ際シ戦時保険法ヲ制定シテ海員ヲ保護シ死亡又ハ廢疾ノ際ニハ千五百弗乃至五千弗ノ範圍内ニ於テ一年ノ收入ニ相當スル金額又ハ被保險人ノ一ヶ月ノ收入ノ十二倍ノ金額ヲ保險金トシテ支拂ヲナシ一部傷害ノ場合ニモ一定額ノ支拂ヲナセリ船舶カ捕獲セラレ敵國ノ爲メ抑留セラレタル場合ニモ補償ヲナスコトヲ定メタリ

第三節 本邦ニ於ケル海員ノ養成及保護ニ關スル制度

第一項 海員ノ養成

我國ニ於ケル高等海員ノ養成機關ハ學校トシテ東京ニ遞信省所管官立商船學校一地方ニ公立商船學校十アリテ組織的ノ教育ヲナシ其他各地ニ多數ノ公私立海員講習所アリ既ニ海上履歷ヲ有スル海員ヲ收容シテ高等海員トシテノ速成的教育ヲナシツツアリ

官立商船學校ハ明治八年十一月設立ノ三菱商船學校ヲ繼承シテ明治十五年四月ヨリ官立トナレリ航海機關ノ兩科ヲ有シ中學卒業程度ノ學力ヲ有スル者ヲ收容シ席上課程二ケ年實習三ケ年ヲ要シ一年二期ニ入學人員ヲ募集セリ入學人員每期航海機關兩科共四十名ナリシカ戰時中船舶職員ノ不足ヲ告ケツツアル實狀ニ鑑ミ大正七年右兩科共二十名ヲ増加シタルカ大正八年十二月更ニ實習期間ヲ半ケ年短縮スルニ至レリ而シテ同校卒業生ハ大正八年末ニ於テ航海科千百八十四人機關科八百四十人計二千二十四人ヲ算セリ

公立商船學校ハ修業年限二ケ年ノ高等小學校卒業程度ノ學力ヲ有スル者ヲ收容シ席上三ケ年實習甲板部三ケ年機關部三年六ヶ月トナセリ官立商船學校ノ卒業生ニハ學術試験ヲ要セスシテ甲種一等運轉士又ハ一等機關士ノ免狀ヲ下付シ以後海上ノ履歷ヲ重ネテ甲種船長又ハ機關長ノ免狀ヲ下付スレトモ其他ノ學校卒業生ニ對シテハ遞信省ニ於テ學術試験ヲ執行シ合格者ニ對シ免狀ヲ下付セシカ戰時中船舶職員ノ需給ヲ緩和セン爲メノ應急施設トシテ大正八年六月右學校卒業生ニ對シテハ學術試験中筆記試験ヲ省略シテ口述試験ノミトナシ又右學校

卒業生ニシテ相當ノ海上履歷ヲ有スル者ニ對シテハ甲種一等運轉士及一等機關士免狀ニ限リ學術試験ヲ受クルコトヲ要セスシテ之ヲ下付シタリ

戰時中我海運界ノ發展ハ商船學校ニ對スル入學志望者ノ激増トナリ官立商船學校ノ如キハ入學志願者收容人員ノ十倍以上ニ達セリ

公私立海員ノ講習所ハ秩序的ノ學校教育ヲ受ケサル水火夫ニシテ相當海上履歷ヲ有スル者又ハ實地出身ノ船舶職員ニシテ上級免狀ヲ得ントスル者ヲ收容シテ短期間内ニ於テ船舶職員試験ニ必要ナル學科ヲ教授スル所ニシテ常設ノモノト臨時開設ノモノトナリ常設ノモノノ中大阪府立海員養成所ノ如キハ其設備頗ル整ヘリ臨時開設ノモノハ臨時船舶職員試験執行地ニ一時的ニ講習所ヲ設置スルモノニシテ主トシテ下級職員ヲ養成スルナリ戰時中沿岸航路ニ於ケル海運ノ盛況ヲ呈スルヤ帆船ノ新造サレタルモノ頗ル多カリシ爲メ此等ニ要スル船舶職員ノ需要多ク多數ノ臨時講習所ノ開設ヲ見タリ尙高等海員ノ補充困難ヲ訴フルヤ政府ノ德憑ニ基キ主要船主ハ經費ヲ支出シテ東京ニ東京海員臨時養成所ヲ神戸ニ在リテハ兵庫縣立高級海員臨時養成所ノ設立ヲ見各種高等海員ノ短期養成

ヲナス所アリタリ

下級海員ノ養成ニ付テハ戦前ニ在リテ唯日本海員救済會アルノミニシテ同會ハ明治二十一年七月ヨリ水火夫ノ養成ヲ開始シタルカ明治二十九年ヨリ政府ハ一定ノ補助金ヲ下付シテ右養成ヲ獎勵スル所アリ更ニ同三十九年ヨリ汽船國後丸ヲ下級海員練習船トシテ無償貸與シタリ同會ハ外ニ海軍省ヨリ汽船豊橋丸ノ拂下ヲ受ケ海員練習船トシテ使用セリ同會ノ養成所ハ横濱、大阪、神戸、函館、長崎、門司、小樽ノ各地ニ在リテ明治二十九年以降ハ年々千名以上ノ下級海員養成ノ計畫ヲ遂行セリ

戦局ノ進展ハ海員ノ供給不足ヲ告ケタルヲ以テ三井物産會社ノ如キハ下級海員養成所ヲ開設シテ自社所屬船ニ海員ヲ供給スルノ方法ヲ採リタリ

第二項 海員保護救済ニ關スル施設

本邦ニ於ケル海員ノ保護救済ニ關シテハ商法海商編中ニ規定アリ左ノ如シ

(一) 疾病救済 海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹

リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三ヶ月以内ノ期間内ニ於ケル治療及看護ノ費用ヲ負擔ス又右疾病傷痍カ職務ノ執行ニ關連スルモノナルトキハ給料全額ノ請求ヲナシ得ルモノトナセリ

(二) 葬式費用ノ船主負擔 海員カ職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式費用ハ船主ノ負擔トセリ

(三) 送還費用ノ請求 海員カ何等過失ナクシテ雇入港以外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港迄ノ送還又ハ其費用ヲ請求シ得ヘシ

右ノ外海員ノ保護救済ニ關シテ政府ハ直接施設スル所ナキモ日本海員救済會ニ對シ毎年一定ノ補助金ヲ交付シテ此等ノ施設ヲナサシメ居レリ同會ハ下級海員ノ爲メ横濱外六ヶ所ニ寄宿所ヲ設置シテ廉價ニ宿泊セシメテ其ノ風紀匡正ヲ圖リ又横濱外五ヶ所ニ專屬病院ヲ設置シ函館外一ヶ所ニ囑託病院ヲ指定シ疾病海員ヲ收容シ治療ヲナシ居レリ其他同會ノ媒介ニヨリ乗船シタル海員ニ對シテハ滿五十歳以上ニ達シ退職シタル者ニハ三百圓以下ノ養老金ヲ給與シ職務上ノ傷疾ニ因リ退職シタル者ニモ三百圓以下ノ扶助金ヲ給與シ又職務上ノ死亡傷痍乘

船中ノ死亡傷痍ニ對シテモ夫々一定額ノ金錢ヲ給與セリ
 海員接濟會ノ外日本郵船會社、大阪商船會社、三井物産會社ノ如キ主要船舶會社
 ハ戰時中海員ノ供給著シク缺乏ヲ告ケタル際之カ優遇策トシテ各自社所屬船乘
 組員ニ對スル救濟保護ニ關スル施設トシテ團體ノ設立ヲナシタルモノ尠カラサ
 ルナリ

大戰時代ノ世界海運(完)

大正十一年十月五日印刷
 大正十一年十月十日發行

大戰時代の世界海運奥付

定價金貳圓五拾錢



遞信省管船局編

發行者

波多野重太郎

印刷者

久松鐵次郎

發賣元

東京神田區仲猿樂町
 振替東京六五五六番
 電話二二二五四番
 九段二二七六番

巖松堂書店

關西發賣所
 滿鮮發賣所

大阪市北區
 會根崎上三丁目
 朝鮮京城
 木町二丁目
 電話一六六六番
 振替京城二四五四番

巖松堂大阪店
 巖松堂京城店

507
43

終